

男女共同参画に
関する意識・意向調査
を実施しました

●職業・職場について

(この項目では、職業とのかかわり方についての考えなどをたずねました。)

～仕事と私生活の両立～

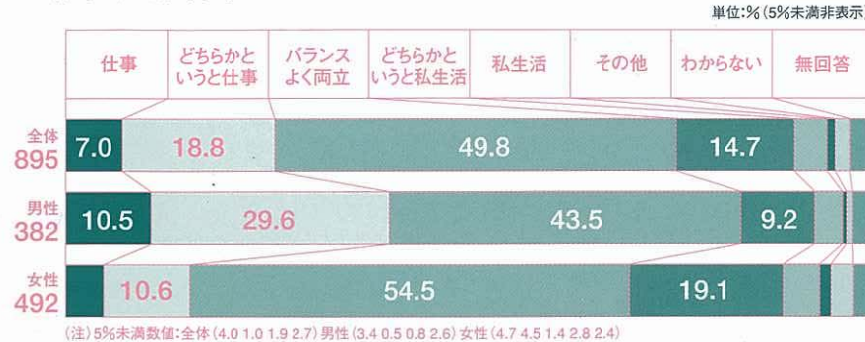
仕事と私生活の両立について、男女ともに「仕事と私生活をバランスよく両立させる」が最も多くなっています。

しかし、「仕事」「どちらかという仕事」という“仕事優先”の回答は、女性より男性の方が多く(男性40.1%、女性15.3%)、「私生活」「どちらかという私生活」という“私生活優先”の回答は、女性の方が多くなっています(男性12.6%、女性23.6%)。

～望ましい女性の働き方～

内閣府調査の類似質問と比較すると、本区調査では「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつほうが良い」が最も多く、約半数を占めています。これに対し、内閣府調査では「結婚・出産に関わらず、ずっと仕事をする」が最も多く、約4割となっており、本区調査とは傾向が大きく異なります。

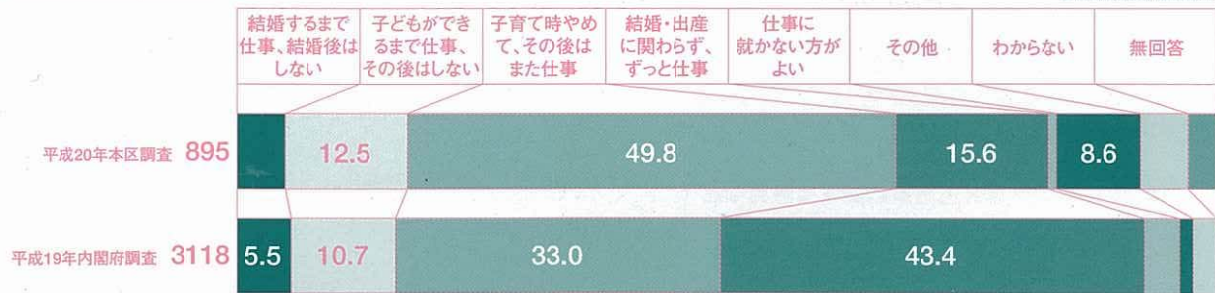
【仕事と私生活の両立】



内閣府調査との比較

内閣府調査:男女共同参画に関する世論調査 平成19年8月(全国20歳以上の男女 5,000人)

単位:%(5%未満非表示)



※内閣府調査の選択肢のうち、「結婚するまでは職業をもつ」を「結婚するまでは仕事、結婚後はしない」、「子どもができるまでは、職業をもつ」を「子どもができるまでは仕事、その後はしない」、「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつほうが良い」を「子育て時やめて、その後はまた仕事」、「子どもが出来ても、ずっと職業を続ける方がよい」を「結婚・出産に関わらず、ずっと仕事」、「女性は職業をもたない」を「仕事に就かない方がよい」と対応させて比較。



「男女共同参画に関する意識・意向調査」を実施しました

北区では、平成3年に北区女性行動計画「アゼリアプラン」を策定、その後男女共同参画社会をめざす行動計画として改定を行い、平成18年には「北区男女共同参画条例」を制定するなど、男女共同参画関連施策の推進に努めています。

この間、国においても、「男女共同参画社会基本法」(平成11年)や「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」(平成13年)の制定、「男女雇用機会均等法」改正(平成18年)など、男女共同参画に向けた社会づくりが着実に進められてきました。

この調査は、そうした状況の中で、区民の方や地域団体、企業、学校などの男女共同参画に関する意識や意向、現状を把握し、「第4次北区アゼリアプラン」策定の基礎資料とするとともに、今後の男女共同参画施策に反映させることを目的に実施しました。

今回の「ゆうレポート」では、その結果を抜粋してご紹介します。

調査期間 平成20年6月6日～7月7日
 対象者 区内在住の18歳以上の一般男女2,000名(回収率44.8%)
 区内に事業所があり従業員数が10人以上の企業の経営者104社(回収率44.2%)
 区内の全町会・自治会長179名、副会長等358名(回収率78.4%)
 区立中学校2年生男女(全員)1,469名(回収率92.9%)

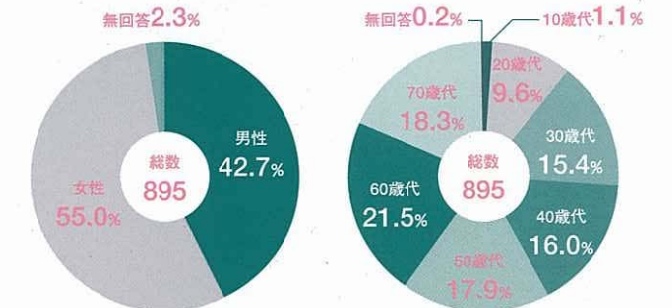
各対象別に、特色ある部分について結果を解説します。

一般男女

区内在住の18歳以上 2,000名

●回答者について

一般男女の回答者は、男性が42.7%、女性が55.0%という割合でした。年齢は、30歳代以上ではそれぞれの年代で15%を上回っていますが、20歳代未満は10%程度と少なくなっています。最も多い回答者は60歳代で、21.5%でした。



●家庭生活について

(この項目では、日常的な家事分担や性別による役割意識に対する考えなどをたずねました。)

～性別役割分担意識～

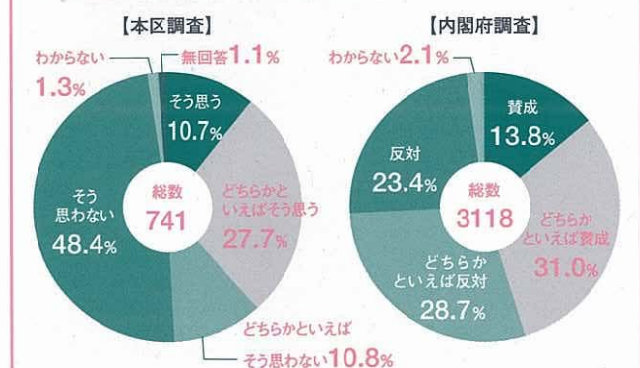
「男は仕事、女は家庭」という考え方について、男女ともに「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」という回答が多くなっています。男女別の割合は、男性45.0%、女性52.3%となっています。それに対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」という回答では、男性37.9%、女性26.8%と、10ポイント程度の男女差が見られました。

内閣府調査の類似質問と比較すると、「そう思う」あるいは「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合は、内閣府調査では44.8%なのに対し、本区調査では38.4%と6ポイント程度低くなっています。一方、「そう思わない」あるいは「どちらかといえばそう思わない」と回答した人の割合は、内閣府調査では52.1%、本区調査では59.2%と、いずれも過半数に達しています。また、「そう思わない」と回答した人だけを比較すると、内閣府調査では約2割にとどまっているのに対し、本区調査では約半数を占めています。

内閣府調査との比較

内閣府調査:男女共同参画に関する世論調査 平成19年8月(全国20歳以上の男女 5,000人)

「男は仕事、女は家庭」という考え方について



※選択肢の「そう思う」を「賛成」、「どちらかといえばそう思う」を「どちらかといえば賛成」、「どちらかといえばそう思わない」を「どちらかといえば反対」、「そう思わない」を「反対」と対応させて比較。本区調査では「どちらともいえない」と回答した人を除き、新たに計算し直した。

企業経営者

従業員数10人以上の区内企業 104社

●回答者について

回答者の属する事業所の内訳では、「製造業」が39.1%で最も多く、以下「建設業」が15.2%、「卸売・小売業」が10.9%が続いています。正社員数は、「30～49人」が28.3%で最も多く、次いで「100人以上」が26.1%、「10～29人」が19.6%が続いています。そのうち男性は「10～29人」が34.8%で最も多く、女性は「1～9人」が60.9%で過半数を占め、平均年齢は男性が45.8歳、女性が40.3歳でした。事業者に対する調査では、ワークライフバランスについての関心や取り組み状況などをたずねています。

●ワークライフバランスについて

～ワークライフバランスへの関心度～

ワークライフバランスに「関心がある」「どちらかといえば関心がある」という回答は、正社員の合計人数が20人以下の企業では4割ですが、21人以上の企業では6割を上回っており、ワークライフバランスに対する関心がより高いことがわかります。

※ワークライフバランス
誰もが仕事、家庭生活、地域生活、自己啓発など、様々な活動について、希望するバランスで展開できる状態(男女共同参画会議・仕事と生活の調和に関する専門調査会による定義から)

【ワークライフバランスへの関心度/正社員合計人数別】

	単位:% (5%未満非表示)					
	関心がある	どちらかといえば関心がある	どちらともいえない	どちらかといえば関心がない	関心がない	ワークライフバランスがよくわからない
全体 46	23.9	37.0	23.9	8.7		
20人以下 10	30.0	10.0	30.0	20.0	8.6	
21人以上 35	22.9	42.9	22.9	5.7		

(注)5%未満数値:全体(2.2 4.3 0.0) 20人以下(0.0 0.0) 21人以上(2.9 2.9 0.0)



～ワークライフバランスの取組みで重要だと思うこと～

ワークライフバランスの取組みで重要だと思うことは、「上司・同僚の理解」「企業のトップの意識」といった職場環境の改善、「保育園等、社会環境の整備」といったことが、特に求められていることがわかります。



【ワークライフバランスの取組みで重要だと思うこと】
総数46 (複数回答)



●介護について

(この項目では、介護が必要になった際の希望などについてたずねました。)

～将来、介護してもらいたい場所～

介護が必要になったとき、どのようにしてほしいかという質問では、男性は「在宅で介護を受けたい」と「施設に入り介護を受けたい」がほぼ並んでいますが、女性では「施設に入り介護を受けたい」が多くなっています。

【介護してもらいたい場所】 単位:% (5%未満非表示)

	単位:% (5%未満非表示)			
	在宅で介護を受けたい	施設に入り介護を受けたい	その他	無回答
全体 895	42.8	48.8		
男性 382	46.1	44.5	5.8	
女性 492	39.8	52.6		

(注)5%未満数値:全体(4.9 3.5) 男性(3.7) 女性(4.5 3.0)

～将来、介護してもらいたい人～

「在宅で介護を受けたい」と回答した人に、誰に介護をしてほしいかたずねたところ、男性は「妻」が圧倒的に多く約6割を占めるのに対し、女性は「有料の介護サービス」「娘」「夫」がそれぞれ3割程度であり、男女の回答に差が見られる結果となりました。

【介護してもらいたい人】 単位:% (5%未満非表示)

	単位:% (5%未満非表示)						
	妻	娘	息子	娘の配偶者	息子の配偶者	その他の親族	有料の介護サービス
全体 383	14.1	27.9	16.7	23.5	5.7		5.7
男性 176	58.5	5.7	16.5	6.3	5.1		
女性 196	26.0	27.6	30.1	6.1			

(注)5%未満数値:全体(3.4 0.3 1.0 2.9 4.4) 男性(0.6 4.5 0.6 1.1 1.1) 女性(0.5 2.0 0.0 1.0 3.6 3.1)



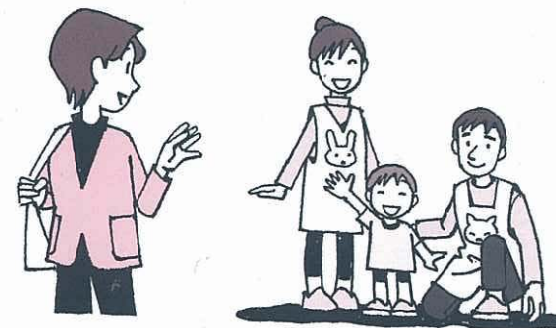
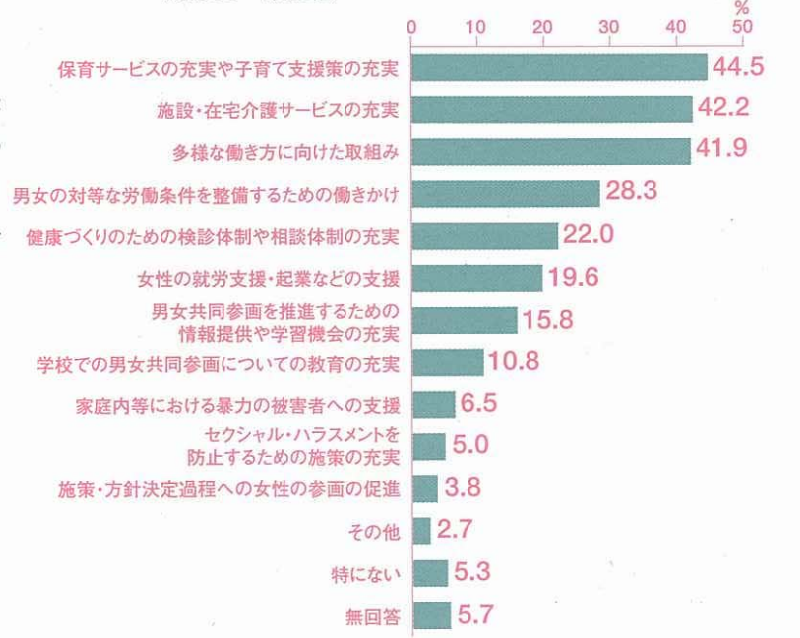
●男女共同参画について

(最後に、北区の男女共同参画推進施策に関する意見などを伺いました。)

～今後、北区が力をいれるべき施策～

男性と女性があらゆる分野に共同で参画することを推進するために、北区が今後力をいれるべき施策としては、「保育サービスの充実や子育て支援策の充実」「施設・在宅介護サービスの充実」「多様な働き方に向けた取組み」(育児・介護休業制度の普及など)等が強く求められていることがわかります。

【今後、北区が力をいれるべき施策】
総数895 (複数回答)



中学生

区立中学校の2年生 1,469名

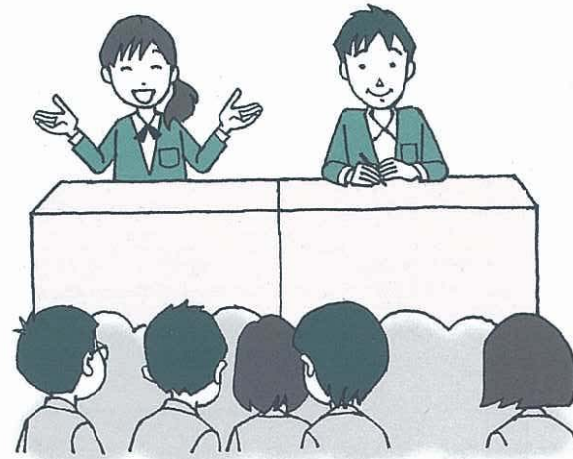
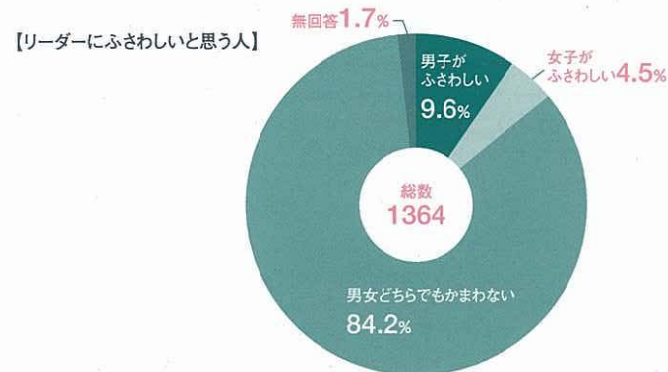
●回答者について

回答者は、男子が50.8%、女子が46.1%という割合でした。
ここでは、家庭内や学校での男女共同参画に関する事柄についてたずねました。

●学校での生活について

～リーダーにふさわしいと思う人～

生徒会長や係の責任者などといったリーダーにふさわしい人は、「男女どちらでもかまわない」という回答が8割を上回っています。



～「男(女)だから〇〇しなさい」と言われた経験～

「男(女)だから〇〇しなさい」と言われた経験は、男子は「言われたことがない」が過半数を占めますが、女子では「よく言われる」「ときどき言われる」という答えが、合わせて6割を上回っています。「よく言われる」「ときどき言われる」と回答した人に対し、言われたときどのように思ったかをたずねたところ、「いやだなと思った」が47.8%で最も多く、全体の約半数を占めています。また、注意されたことのある内容は、男子は「勉強のこと」が54.5%で最も多く、女子は「ことばづかひや話し方」が47.4%と最多で、男子と女子では傾向が異なることがわかります。

【「男(女)だから〇〇しなさい」と言われた経験】

単位:% (5%未満非表示)

	よく言われる	ときどき言われる	言われたことがない	無回答
全体 1364	13.0	42.4	41.9	
男子 693	10.4	36.4	50.4	
女子 629	15.6	49.4	32.8	

(注) 5%未満数値: 全体 (2.6) 男子 (2.9) 女子 (2.2)

今回の調査をまとめた「北区男女共同参画に関する意識・意向調査報告書」は、男女共同参画センター「スペースゆう」のほか、区内の図書館・地域振興室・区政資料室(区役所第一庁舎1階)で閲覧できます。また、右記のホームページでもご覧いただけますので、ご利用ください。

▶ <http://www.city.kita.tokyo.jp/docs/digital/362/036202.htm>

(北区のトップページからは、「デジタル区政資料室」をクリックし、「統計資料」にチェックの上、「キーワード」に「男女共同参画」を入れて検索してください)



町会・自治会

区内の全町会・自治会の会長等 537名

●回答者について

回答者の内訳は、男性が59.4%、女性が38.2%でした。年齢は、「70歳代」が43.9%で最も多く、次いで「60歳代」が34.9%となっており、60歳代以上の人が約8割を占めています。20歳代～50歳代はいずれも10%未満にとどまっています。

役職は、「会長」が30.6%、「副会長」が34.9%、その他の役員などが29.7%でした。全体では男性の方が多く役職に就いており、会長では約8割、副会長では6割近くが男性となっています。

また、所属する町会・自治会の現在の加入世帯数については、「499世帯以下」が35.7%で最も多く、「1000世帯以上」が31.0%、「500～999世帯以下」が25.6%でした。

町会・自治会に対しては、男女共同参画に関する取組みなどを中心にたずねています。

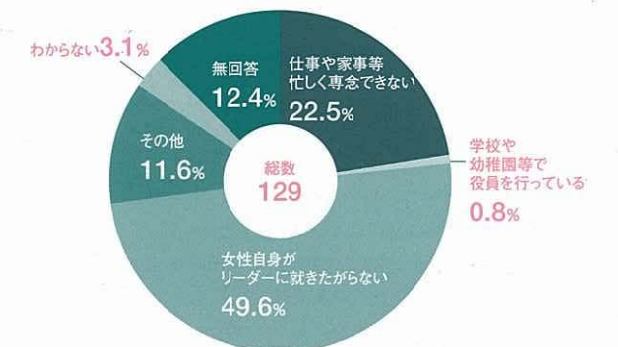
●男女共同参画について

～女性リーダーが少ない原因～

会長のみに対し、女性リーダー(役職者)が少ない原因についてたずねたところ、「女性自身がリーダーに就きたがらないから」という回答が約半数を占めています。以下、「仕事や家事、育児が忙しく、地域活動に専念できないから」「学校や幼稚園等で役員を行っているから」等となっています。



【女性リーダーが少ない原因】

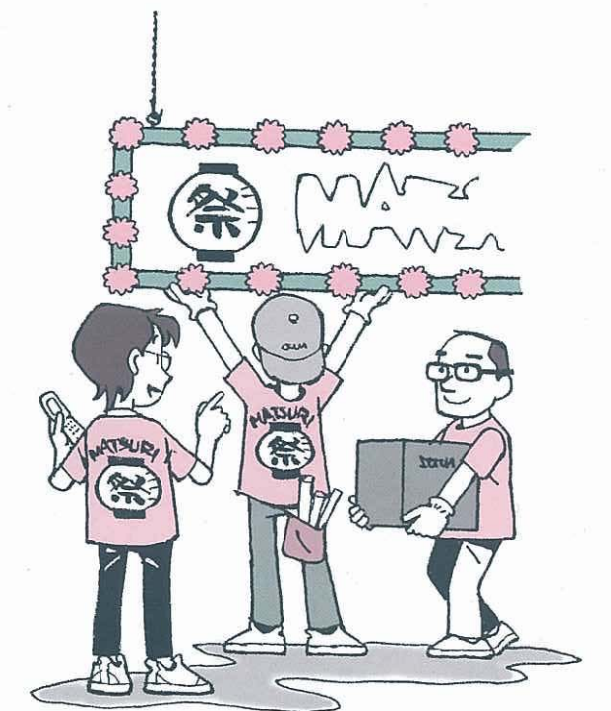
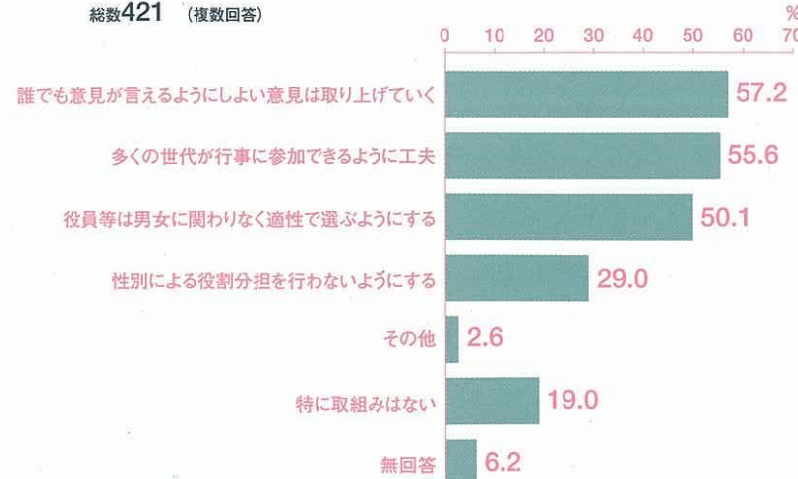


～男女共同参画推進のための取組み～

男女共同参画を推進するために取組まれていることについては、「男女に関わりなく、誰でも意見が言えるようにし、よい意見は取り上げていく」「男女に関わりなく、できるだけ多くの世代が行事に参加できるように工夫する」「役員等は、男女に関わりなく適性で選ぶようにする」等が過半数を占めています。また、「特に取組みは行っていない」という回答も約2割ありました。

【男女共同参画推進のための取組み】

総数421 (複数回答)



情報コーナー

3月にスペースゆうで行う講座を、
ご紹介します!

男女共同参画センター「スペースゆう」では、性別にとらわれない自分らしい生き方を応援するさまざまな事業を行っています。ぜひご参加ください。

〈開催予定行事一覧〉 ※すべて申込先着順

	日時	行事名	内容	講師	対象・定員・費用	申込方法
I	3月7日(土) 午後2時~4時	地域の暮らし創造塾 「フィリピンの織物(ティナラク織)を通して考える私たちの生活」	フィリピン・ミンダナオ島に暮らす先住民族の女性たちが紡ぎだすティナラク織。全工程を一人の人が手がけます。現地の様子や織物の製造工程を写真で見ながら、私たちの生活との関係を考えます。	・森田奈美氏 (ティナラク織の会KAFI主宰)	・誰でも参加可能 ・20名 ・無料	電話・FAX・Eメールで、希望講座名・氏名・住所・電話番号を連絡 ※保育希望者は、講座1週間前までに子どもの氏名・年齢・性別も連絡 (1歳~就学前対象)。
II	3月8日(日) 午前10時~12時	女性のための護身術 「大切な私の心とからだを守るために」	自分に備わっている「力」を実感し、攻撃ではない手法で自分を守るということを、体を動かしながら学んでみませんか。	・NPO法人「青い空一子ども・人権・非暴力」スタッフ	・18歳以上の女性 ・20名 ・無料	TEL 03 (3913) 0161 FAX 03 (3913) 0081 E-mail: danjo-c@city.kita.lg.jp
III	3月11、18日(水) 午後6時30分 ~8時30分	心の元気講座 「うつへの人の支え方」	ひどく疲れていたり、塞ぎこんでいる人が身近にいた場合に、周囲の人にできることを考えます。うつの知人・家族を支えたいと考える人など、ご参加ください。	・正木智子氏 (東京女子医科大学付属 女性生涯健康センター 心理相談員)	・誰でも参加可能 ・25名 ・無料	
IV	3月4日(水)~15日(日)	ギャラリー遊 ※絵画、写真等個人や団体の作品を、随時展示しています	第4回昭和期の人形と絵手紙展 (文化人形や絵手紙などの展示)	申込不要。左記期間中は、開館時にいつでも鑑賞できます。 開館時間 火~土 午前9時~午後9時 日 午前9時~午後5時		
	3月18日(水)~29日(日)		ふれあい (風景や人物などの写真展示)	※ギャラリー入場は、なるべく閉館30分前までをお願いします		

スペースゆうのお薦め図書

スペースゆうの情報コーナーでは、男女共同参画や自分らしい生き方に関する資料を揃えています。ぜひお立ち寄りください。

『「社会を変える」を仕事にする』
駒崎弘樹著/2007

共働きの親にとって、最大のピンチは子どもが病気の時。親が仕事を休めないとき、病気の子どもの預かってくれるのが「病児保育」です。ITベンチャー企業から、病児保育のNPOを立ち上げるという転身をした若者の体験談。前向きなエネルギーが感じられます。



『ペルセポリス I・II』
マルジャン・サトラビ著 園田恵子訳/2005

イランで生まれ育った著者の体験を描いた作品。市民の自由が奪われ、女性が抑圧されている状況がリアルに描かれています。16カ国で翻訳され、批評眼の感じられる内容と親しみやすい絵柄で注目されています。



『「婚活」時代』
山田昌弘・白河桃子著/2008

「婚活」は、「結婚活動」の略です。未婚化、晩婚化が進んでいる理由は「結婚がかつてのような生活必需品ではなくなってきているから」だとのこと。そんな中で結婚するならば、そのための活動=「婚活」が必要だと分析しています。未婚化、少子化の本は数多く出ていますが、こちらもお薦めの一冊。



男女共同参画センター「スペースゆう」へ来てみませんか?

所在地 〒114-8503 北区王子1-11-1 北とびあ5・6階
TEL 03-3913-0161 男女共同参画センター 北とびあ6階
FAX 03-3913-0081 スペースゆう タワーロードから
お入りください。

・東京メトロ南北線王子駅5番出口直結
・JR京浜東北線王子駅北口徒歩2分
・都電荒川線王子駅前徒歩2分

今回の「ゆうレポート」では、昨年6月から7月にかけて実施した「北区男女共同参画に関する意識・意向調査」の調査結果を特集しました。「男は仕事、女は家庭」という考え方には反対する人が多いものの、女性の結婚・出産後の働き方については、「継続就業型」よりも「中断再就職型」を支持する人がかなり多いことがうかがえる結果となりました。ワークライフバランスの言葉が社会に知られるようになったと思ったり、かつてない経済状況の悪化に社会全体が見舞われています。しかし、こんな情勢だからこそ、様々な立場の人が共存できる道を見つけたいものです。

編集後記

